

# 第 20 回

## 江 東 区 政 世 論 調 査

平成 23 年



## 区政への期待に応えるために

江東区政世論調査は、昭和48年から隔年で実施してきており、今年で20回目となります。本区では、この10年ほどの間に人口が8万6千人以上増加し、今や47万人を超えております。

私は、この4月の選挙で江東区長として第2期目となりましたが、このような急激な人口増加や大規模開発、豊洲新市場移転計画など、本区に大きな影響を及ぼす社会環境の変化を踏まえ、将来のまちづくりの指針となる新たな基本構想とその実現に向けた長期計画に基づき、区政運営の着実な推進に取り組んでいるところです。

さらに、「みんなで作る伝統、未来 水彩都市・江東」を目指し、緑豊かなまちづくりを推進していくために「CITY IN THE GREEN」事業を展開しております。

さて、世論調査において毎回お伺いしている定住意向率については、88.3%と前回同様、非常に高い水準を維持しております。本区の伝統ともいえる「下町の人情とおせっかい」といった地域風土に加え、臨海部の躍動感や活気などが区民の皆様を受け入れられ「住み続けたい」という意識に繋がったものと考えております。

また、さる3月11日に発生した東日本大震災をふまえ、防災対策など区民生活に密着した施策への要望も寄せられております。今回の調査では、経年で行っている調査項目に加え、「障害者福祉」、「温暖化対策」などの行政課題の変化を見据えた調査項目を取り上げました。

調査結果につきましては、今後の区政運営や施策立案の際の貴重な基礎資料として、活用してまいりたいと考えております。

最後に、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました区民の皆様にご心から御礼を申し上げます。

平成23年11月

江東区長 山崎 孝明

## 1. 調査目的

江東区政の各分野について区民の意識や動向、意見や要望などを把握することにより、今後の区政運営の参考に資する。

## 2. 調査の内容

- |            |             |                |
|------------|-------------|----------------|
| (1) 定住性    | (5) 温暖化対策   | (9) こうとう区議会だより |
| (2) 防災対策   | (6) 清掃リサイクル | (10) 広報・広聴     |
| (3) 男女共同参画 | (7) 南北交通    |                |
| (4) 障害者福祉  | (8) 選挙      |                |

## 3. 調査の設計

- |              |                                                                      |
|--------------|----------------------------------------------------------------------|
| (1) 調査地域     | 江東区全域                                                                |
| (2) 調査対象     | 江東区在住の満20歳以上の男女                                                      |
| (3) 標本数      | 1,200人                                                               |
| (4) 調査対象者の抽出 |                                                                      |
| ①母集団         | 江東区住民基本台帳上の満20歳以上の男女                                                 |
| ②地点数         | 120地点(1地点10サンプル)                                                     |
| ③抽出法         | 層化2段無作為抽出法(層化→地点抽出→対象者抽出)                                            |
| ④層化          | 1又は2箇所の出張所(旧出張所を含む)の所管区域を単位として7地区に層化(図1・表1参照)                        |
| ⑤地点数配分       | 1地点が10サンプルとなるように、各地区の調査対象者に応じて地点数を比例配分した(合計120地点)                    |
| ⑥地点抽出        | 各地区ごとの地点数に応じてインターバルを定め、等サイズブロック抽出法に従い、無作為系統的に各地点の抽出スタート点を決めて地点を抽出した。 |
| ⑦対象者抽出       | 抽出された各地点のスタート点より、1地点10票ずつのサンプルを無作為系統的に抽出した。                          |
| (5) 調査期間     | 平成23年6月25日～7月11日                                                     |
| (6) 調査機関     | 株式会社 エスピー研                                                           |

図1 地区区分図

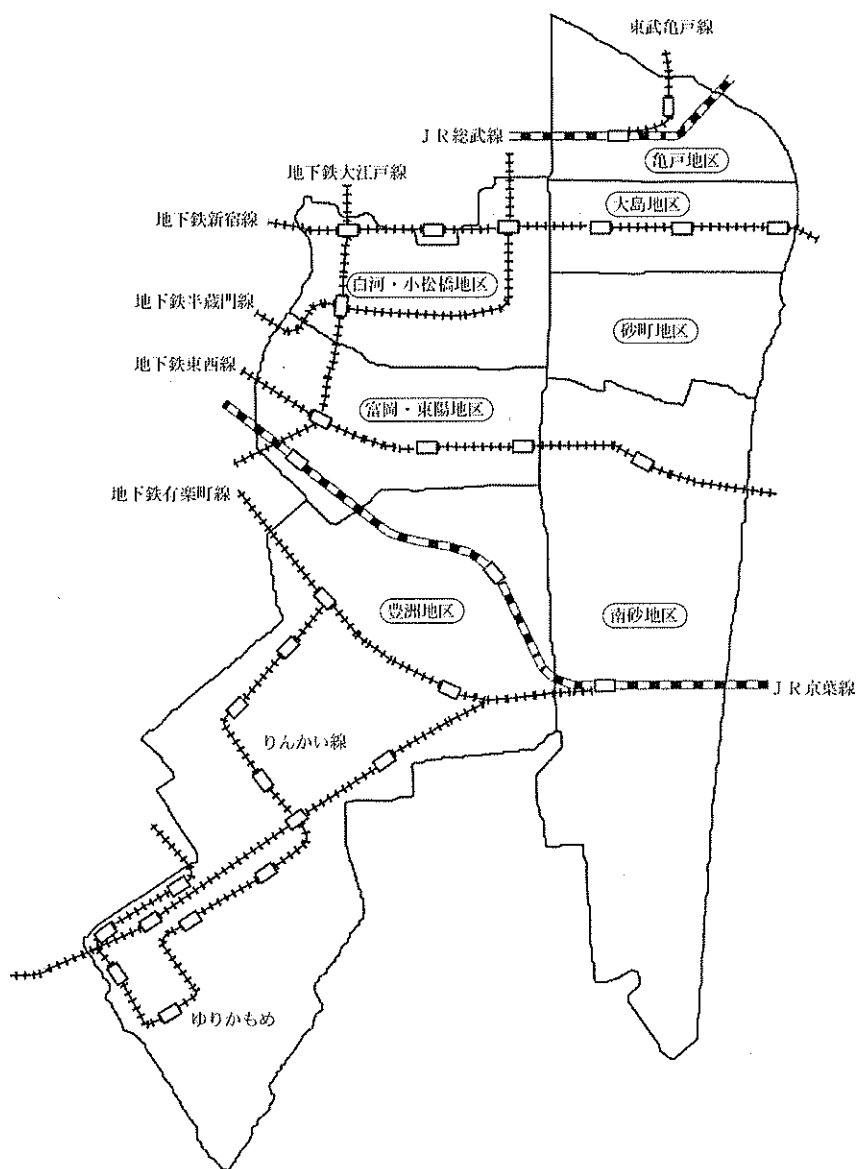


表1 地区・町丁名対応表

地区	該 当 町 丁 目
白河・小松橋	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋、千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
富岡・東陽	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島、木場、東陽、南砂2丁目(1番1号~5号・5番~7番)、新砂1丁目1番
豊洲	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海
亀戸	亀戸
大島	大島
砂町	北砂、南砂(1丁目、5丁目)、南砂2丁目(24番~34番)、東砂(1丁目~5丁目)
南砂	東砂(6丁目~8丁目)、南砂2丁目(1番1号~5号・5~7番・24番~34番を除く)・3・4・6・7丁目、新砂1丁目(1番を除く)・2・3丁目、夢の島、新木場、若洲

※平成23年6月1日現在

#### 4. 調査方法

- (1) 実査方法 調査員による個別面接聴取法
- (2) 調査票 巻末綴じ込みの調査票を使用
- (3) 予告はがき 「江東区政世論調査のお願い」の調査訪問予告はがきをあらかじめ郵送した。
- (4) 再訪問 調査対象者が不在の場合は、日時を変えて3回以上訪問し、調査が円滑に遂行されるように心掛けた。

#### 5. 回収結果

##### (1) 回収結果内訳

地 区	満 20 歳以上人口 (構成比)	標本数	有効回収数	有効回収率
区 全 体	363,113 人 (100.0%)	1,200	904	75.3%
白河・小松橋	58,063 人 (16.0%)	190	125	65.8%
富岡・東陽	51,544 人 (14.2%)	170	134	78.8%
豊 洲	70,483 人 (19.4%)	230	163	70.9%
亀 戸	42,292 人 (11.6%)	140	108	77.1%
大 島	47,749 人 (13.1%)	160	124	77.5%
砂 町	59,211 人 (16.3%)	200	162	81.0%
南 砂	33,771 人 (9.3%)	110	88	80.0%

(2) 回収不能数 296 票 回収不能率 24.7%

##### (3) 回収不能内訳

回収不能項目	件数	構成比
拒 否	99	33.4%
長 期 不 在	20	6.8%
短 期 不 在	146	49.3%
転 居 ・ 転 出	15	5.1%
住 所 不 明	7	2.4%
病 気 ・ 入 院 ・ 死 亡	7	2.4%
そ の 他	2	0.7%

## 6. 摘要と標本誤差

- (1) すべての集計表は、小数点第2位を四捨五入した。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基礎(n)として算出した。したがって、複数の回答の設問のすべての比率は合計すると100%にならないことがある。
- (3) 標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下表のとおりである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基礎(n)、及び②回答比率(P)によって異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数  
 n = 比率算出の基礎(サンプル数)  
 p = 回答の比率

回答の比率(p) 基礎(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
904	± 2.8%	± 3.8%	± 4.3%	± 4.6%	± 4.7%
800	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
600	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
100	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

(注) 1. 表は  $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$  として算出した。

2. 層化を行った場合、誤差は上表よりやや小さくなる。

3. この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が904人であり、その設問中の選択肢の回答比率が70%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも4.3%である。」

## 7. 集計・分析にあたって

- (1) 集計は、①単純集計、②フェイスシートとのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (2) フェイスシート7項目およびそれに準ずる設問として2項目を採用した。
 

①地区別	⑥ライフステージ別(F5)
②性別(F1)	⑦住居形態別(F6)
③性・年齢別(F1×F2)	⑧居住年数別(問1)
④職業別(F3)	⑨定住・転出意向別(問2)
⑤家族人数別(F4)	

(3) 巻末相関表には、(2)の9項目を基本分類軸として掲載した。また、分類軸は無回答を省いたものを掲載している。

(4) 分析に使用したパーセント表示は、全体については小数点第2位を四捨五入して小数点第1位を算出したものを使用した。また、クロス集計によるグラフ上で比率の少ないものは省略した場合もある。したがって、同一項目で小数点第1位と小数点第2位の四捨五入で数値が異なる場合や、回答比率の合計が100%にならないものがある。

(5) 図、表中の数字で「-」（バー）はその項目に該当する回答がまったくないものを示す。

(6) ライフステージの名称及び内容は以下のとおりである。

独身期	40歳未満の独身者
家族形成期	40歳未満の子どもがいない夫婦、または一番上の子どもが小学校入学前の人
家族成長前期	一番上の子どもが小・中学生の人
家族成長後期	一番上の子どもが高校・大学生の人
家族成熟期	64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
高齢期	65歳以上の人

(7) 「調査結果の分析」の分析軸で、職業別の内容は以下のとおりである。

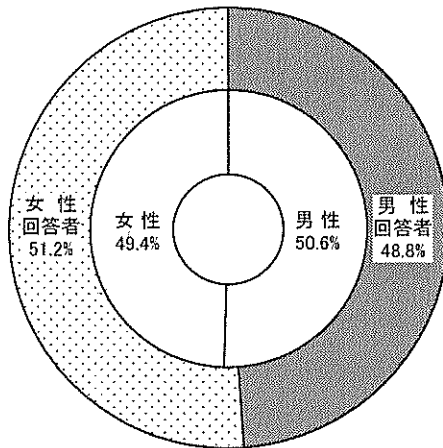
有職男性	男性で職業が「自営業・事業主」、「自由業」、「管理職」、「事務職・技術職」、「労務職・サービス職」、「パート・アルバイト」のいずれかに該当する人
有職女性	女性で職業が「自営業・事業主」、「自由業」、「管理職」、「事務職・技術職」、「労務職・サービス職」、「パート・アルバイト」のいずれかに該当する人
専業主婦	職業が「専業主婦」に該当する人
学生	職業が「学生」に該当する人
無職	職業が「無職」に該当する人

## 8. サンプル（調査回答者）特性

今回の回答者の特性は、下記のとおりである。なお、母集団とは住民基本台帳上の満20歳以上の男女全員である。

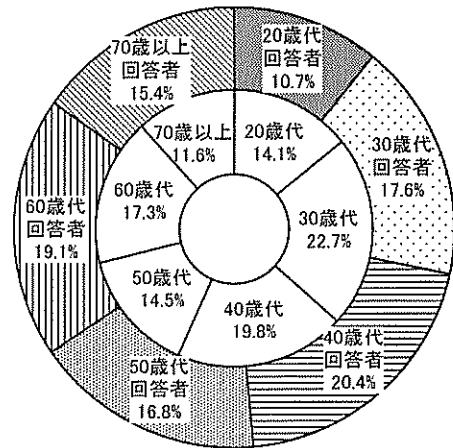
### (1) 性別

◎母集団は男性の方が多いが、回答者は女性の方が多い。



### (2) 年齢

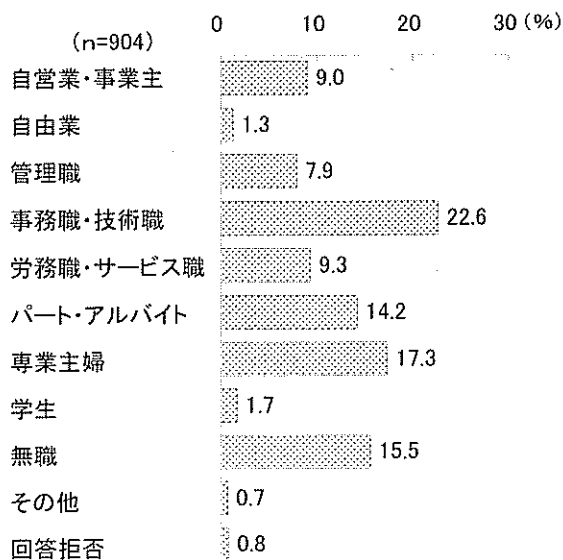
◎母集団の割合に比べて20歳代、30歳代が小さく、70歳以上が大きい。



(注) 内円は母集団（江東区在住の満20歳以上の区民）の構成比、外円は調査回答者の構成比を示している。

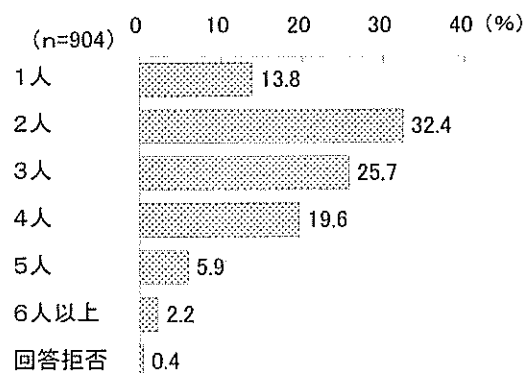
### (3) 職業

◎事務職・技術職が多く、次いで専業主婦が多い。



### (4) 家族人数

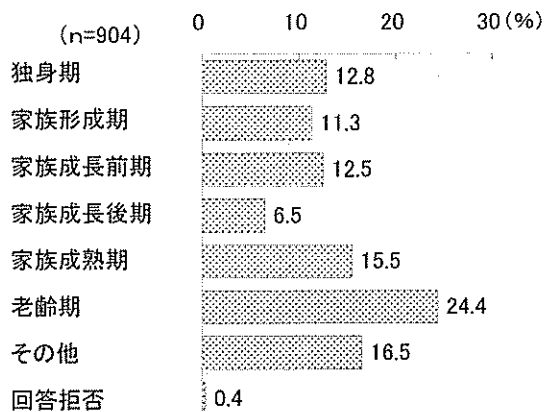
◎2人家族が3割を超えている。





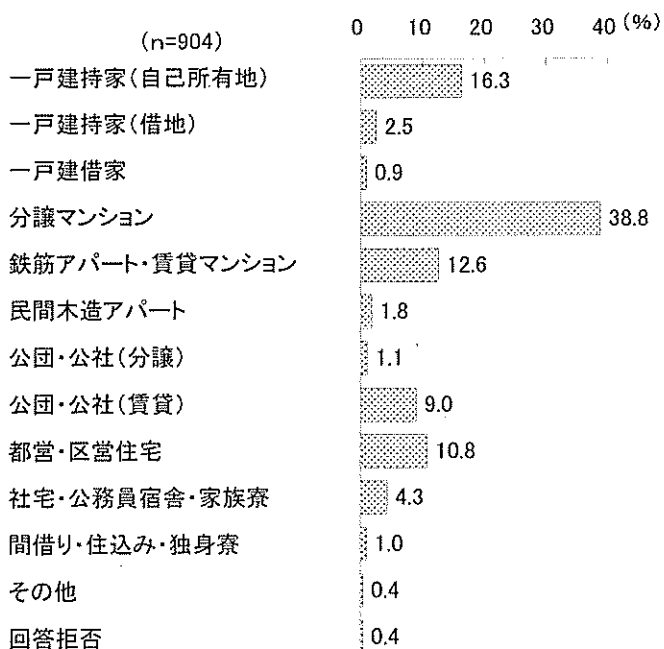
### (5) ライフステージ

◎老齢期が2割台半ばとなっている。



### (6) 住居形態

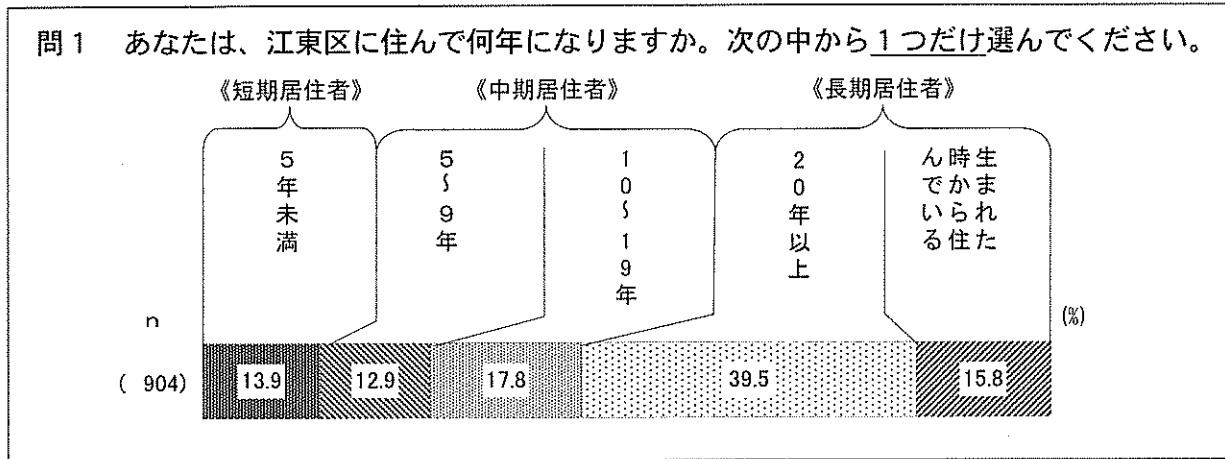
◎分譲マンションが最も多く、次いで一戸建持家（自己所有地）が多い。



# 1 定住性

## (1) 居住年数

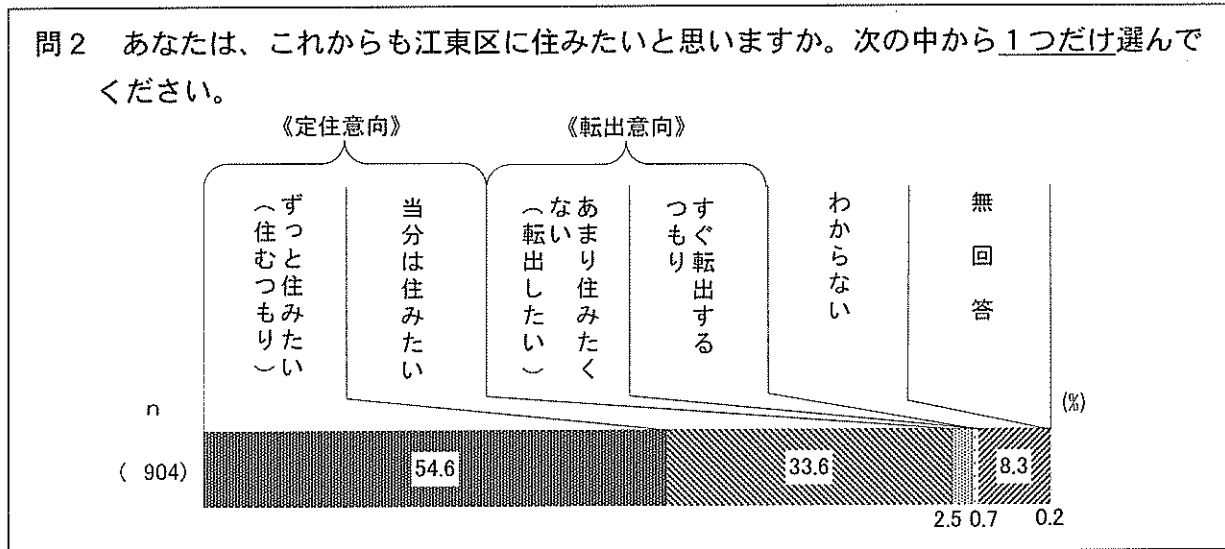
◇《長期居住者》は5割台半ば



○居住年数については、「20年以上」(39.5%)と「生まれた時から住んでいる」(15.8%)の2つを合わせた《長期居住者》(55.3%)が5割台半ばとなっている。

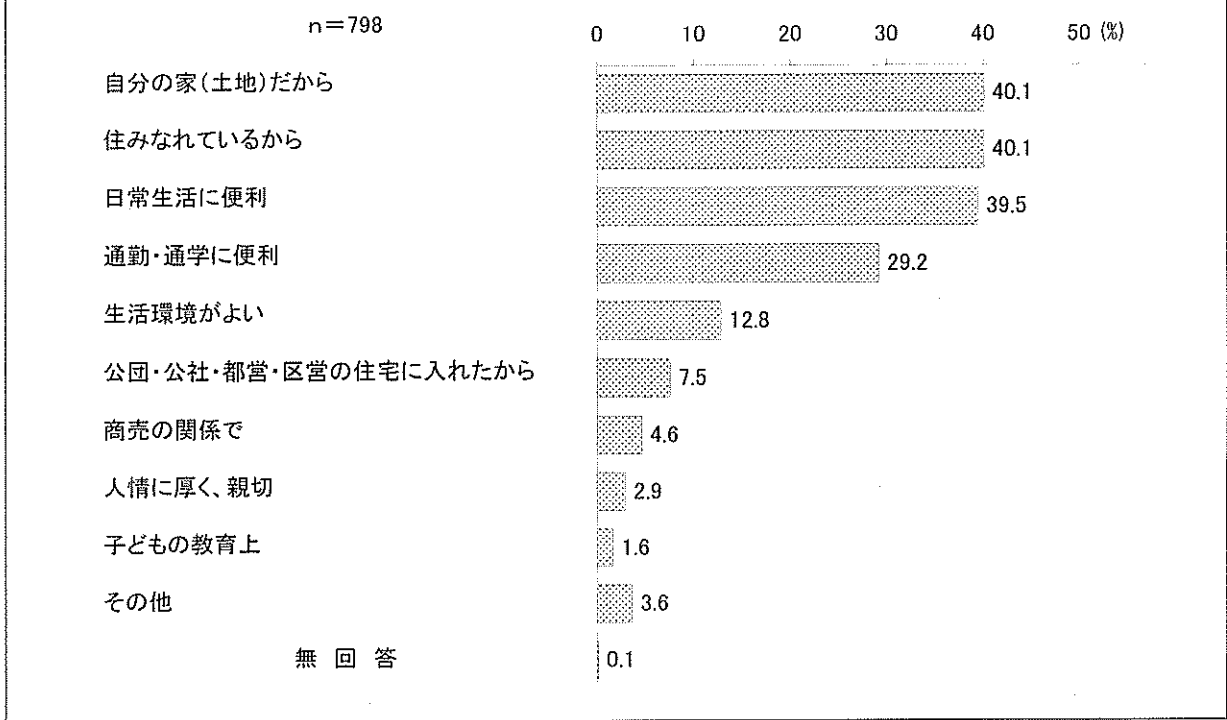
## (2) 定住・転出意向

◇《定住意向》は9割近く



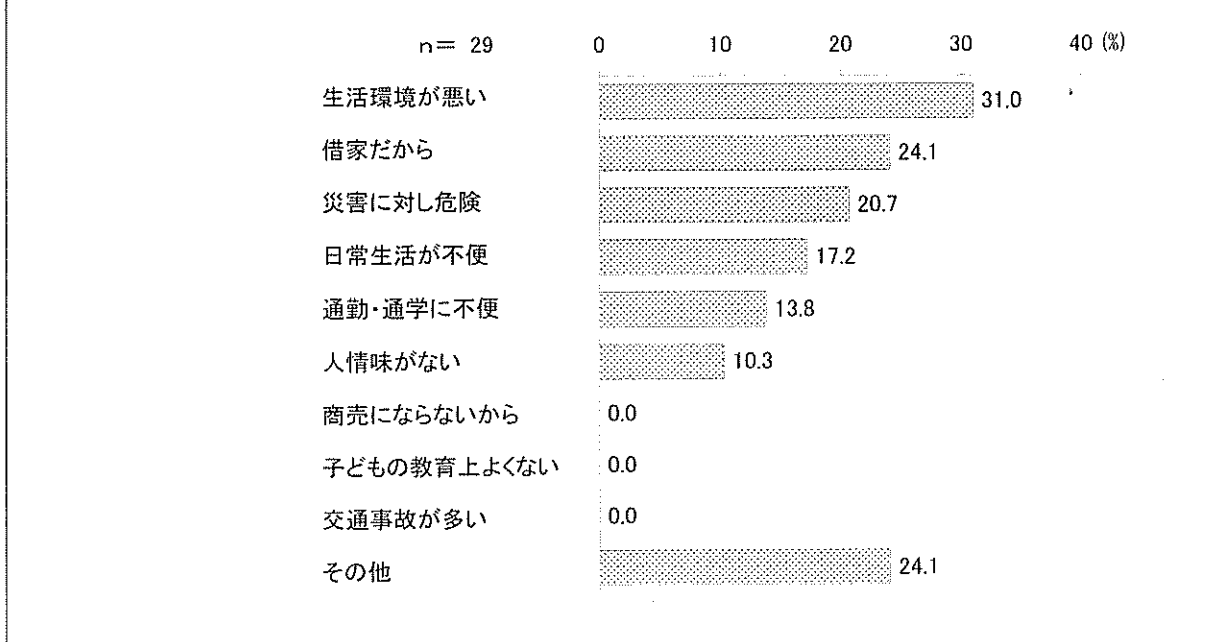
○定住・転出意向については、「ずっと住みたい (住むつもり)」(54.6%)と「当分は住みたい」(33.6%)の2つを合わせた《定住意向》(88.3%)は9割近くとなっている。

【定住意向理由（複数回答）】（2つ以内で回答）



○定住意向理由については、「自分の家(土地)だから」、「住みなれているから」(ともに40.1%)、「日常生活に便利」(39.5%)の3項目がほぼ4割となっている。

【転出意向理由（複数回答）】（2つ以内で回答）

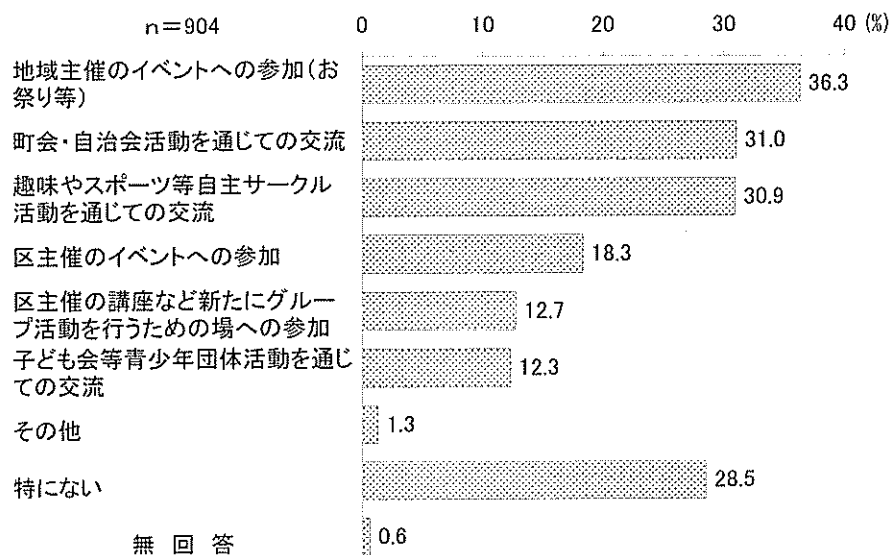


○転出意向理由としては、「生活環境が悪い」(31.0%)が3割を超え最も多くなっている。

### (3) 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

◇「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」が3割台半ば

問2-3 ご近所の中で新たに江東区に住まれた方と、以前から住んでいる方が交流を深める場合、あなたはどのようなことなら参加できますか。次の中からすべて選んでください。

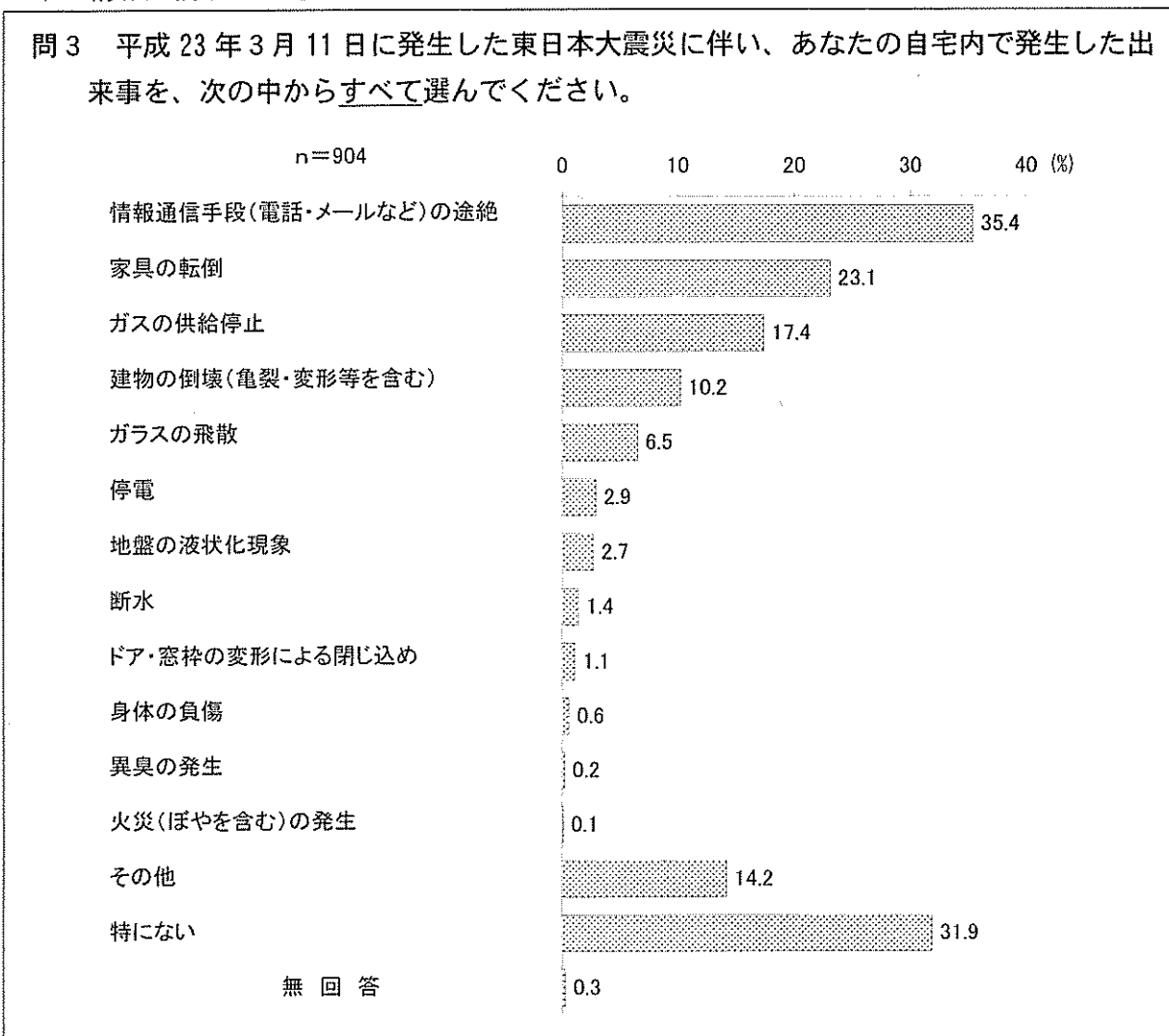


○新たに江東区に住んだ区民と、以前から江東区に住んでいる区民が交流を深めるために参加できることは何か聞いたところ、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」（36.3%）が3割台半ばで最も多く、次いで「町会・自治会活動を通じての交流」（31.0%）、「趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流」（30.9%）、「区主催のイベントへの参加」（18.3%）と続いている。

## 2 防災対策

### (1) 東日本大震災に伴い自宅内で発生した出来事

◇「情報通信手段（電話・メールなど）の途絶」が3割台半ば

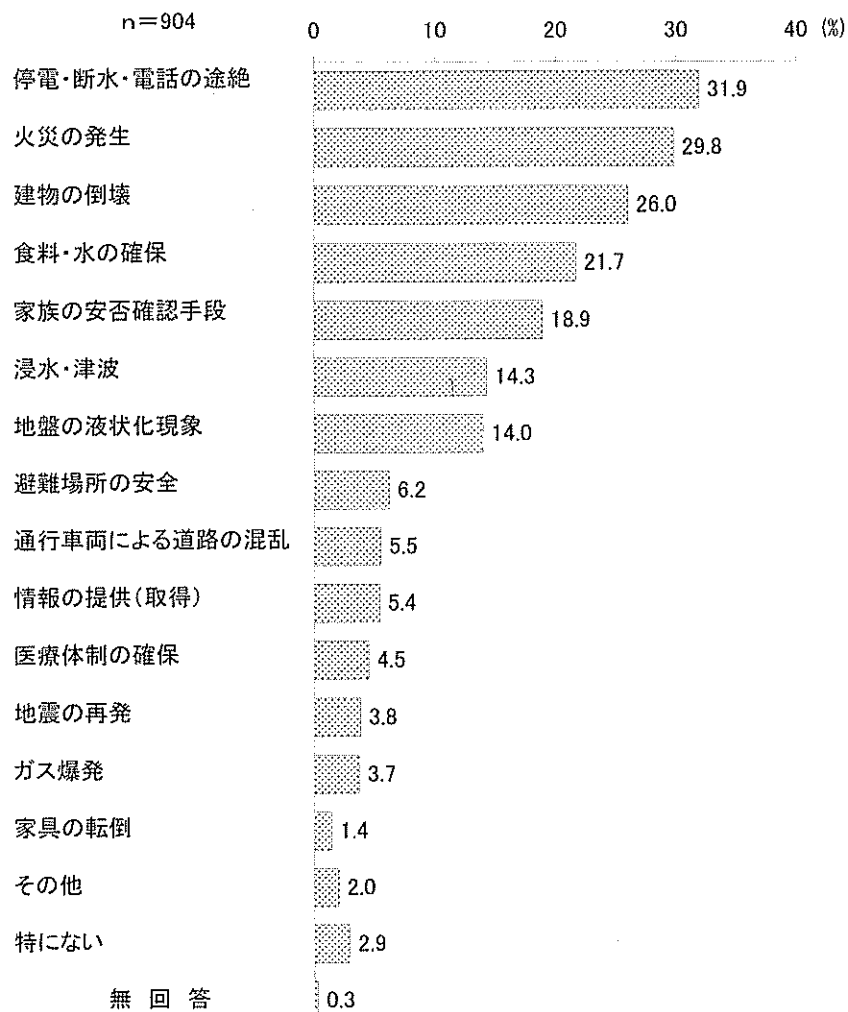


○東日本大震災に伴い自宅内で発生した出来事を聞いたところ、「情報通信手段（電話・メールなど）の途絶」（35.4%）が3割台半ばで最も多く、次いで「家具の転倒」（23.1%）、「ガスの供給停止」（17.4%）と続いている。また、「特にない」（31.9%）が3割を超えている。

## (2) 震災時の不安

◇「停電・断水・電話の途絶」が3割を超える

問4 今後、東京に大地震が発生した場合、あなたが特に不安だと思うものを次の中から2つまで選んでください。

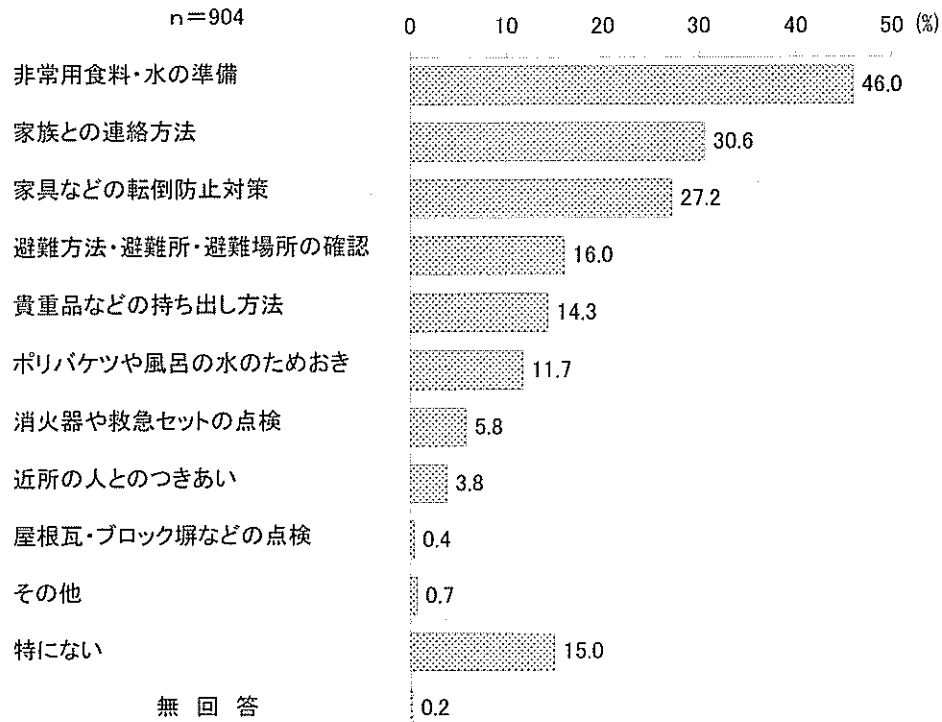


○大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「停電・断水・電話の途絶」(31.9%)が3割を超え最も多く、次いで「火災の発生」(29.8%)、「建物の倒壊」(26.0%)、「食料・水の確保」(21.7%)と続いている。

### (3) 震災時の備え

◇「非常用食料・水の準備」が4割台半ば

問5 あなたの家庭で、大地震に備えて普段から特に心掛けていることを次の中から2つまで選んでください。

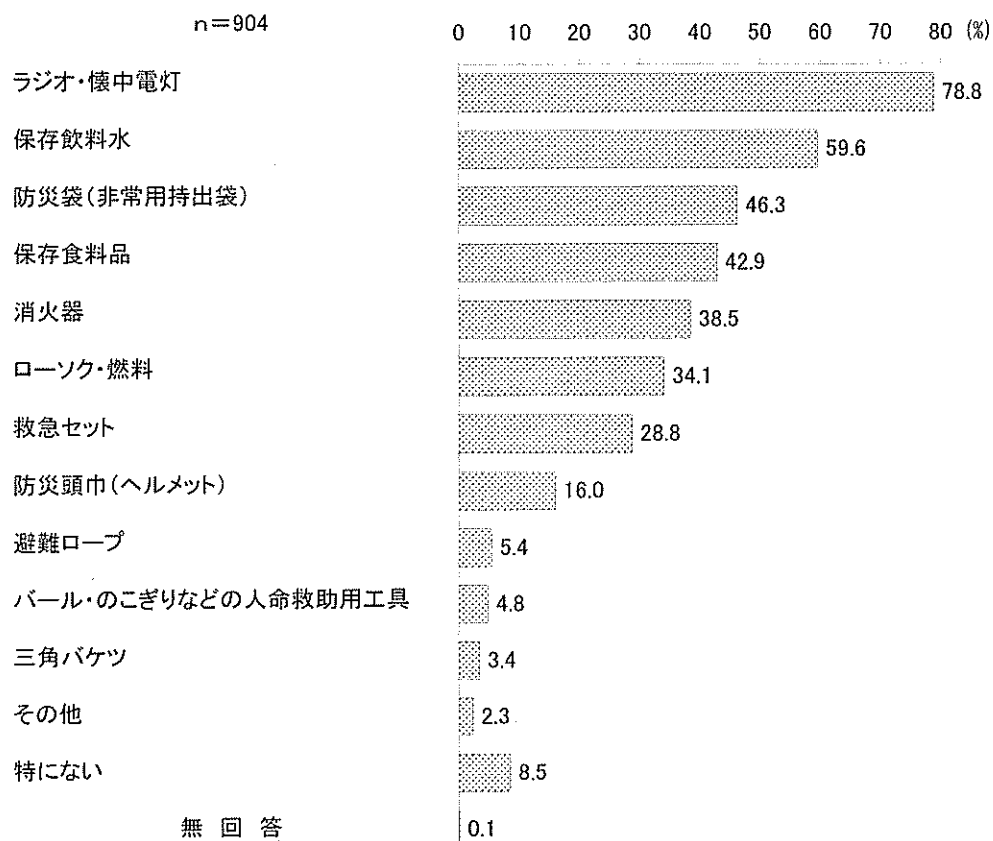


○大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(46.0%)が4割台半ばで最も多く、次いで「家族との連絡方法」(30.6%)、「家具などの転倒防止対策」(27.2%)と続いている。

#### (4) 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「ラジオ・懐中電灯」が8割近く

問6 災害に備え、あなたのご家庭で現在準備している防災用品および用具を、次の中からすべて選んでください。



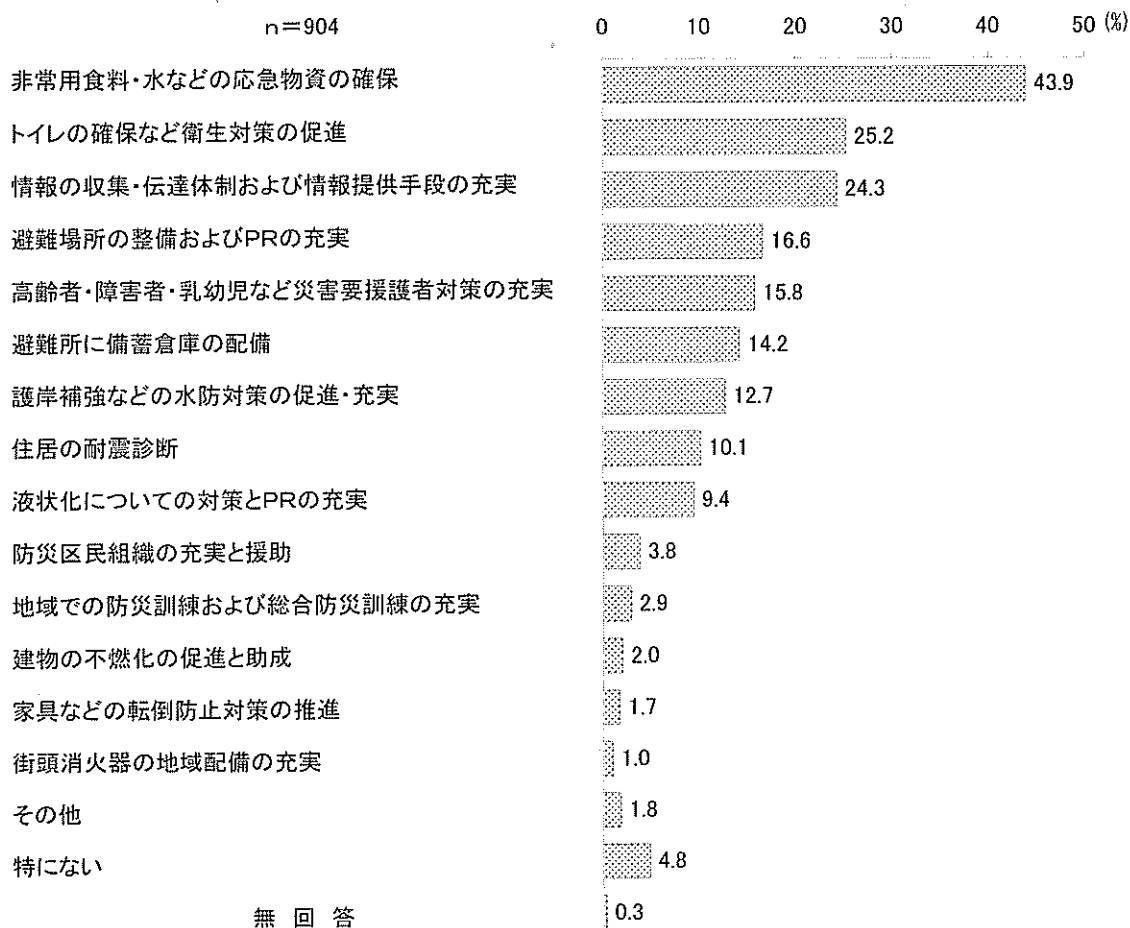
○災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「ラジオ・懐中電灯」(78.8%)が8割近くで最も多く、次いで「保存飲料水」(59.6%)、「防災袋(非常用持出袋)」(46.3%)と続いている。



## (5) 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割台半ば

問7 あなたが、大地震の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことを次の中から2つまで選んでください。

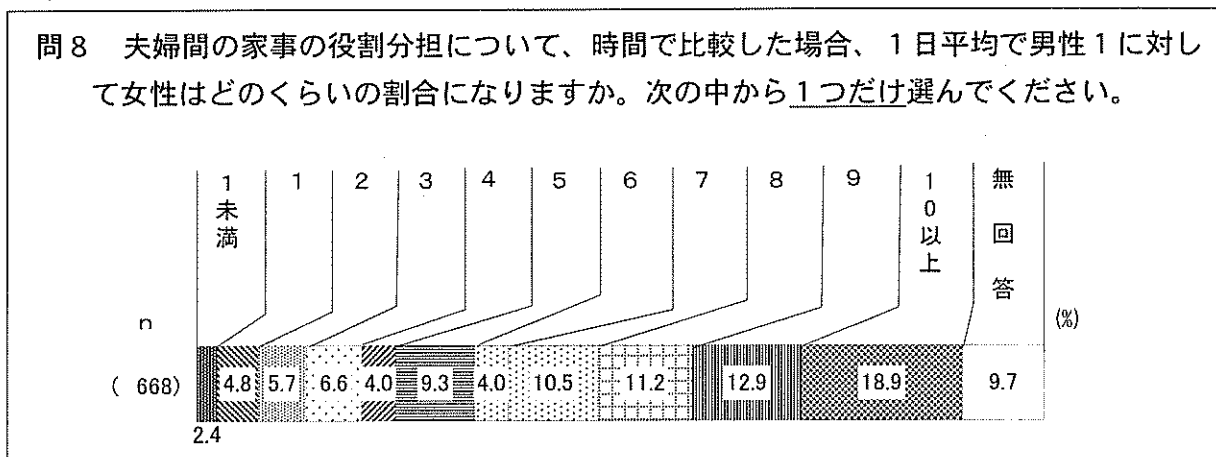


○大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(43.9%)が4割台半ばで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(25.2%)と続いている。

### 3 男女共同参画

#### (1) 夫婦間の家事の役割分担

◇「10以上」が2割近く

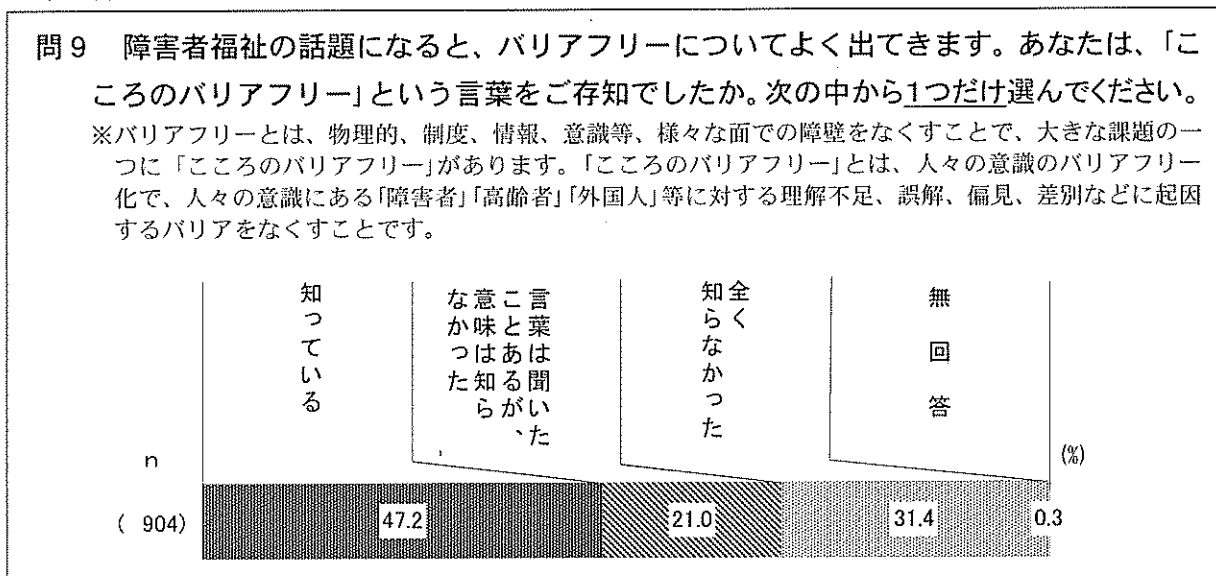


○夫婦間の家事の役割分担を聞いたところ、「10以上」（18.9%）が2割近くで最も多く、次いで「9」（12.9%）、「8」（11.2%）と続いている。

### 4 障害者福祉

#### (1) 「こころのバリアフリー」の認知状況

◇「知っている」が5割近く

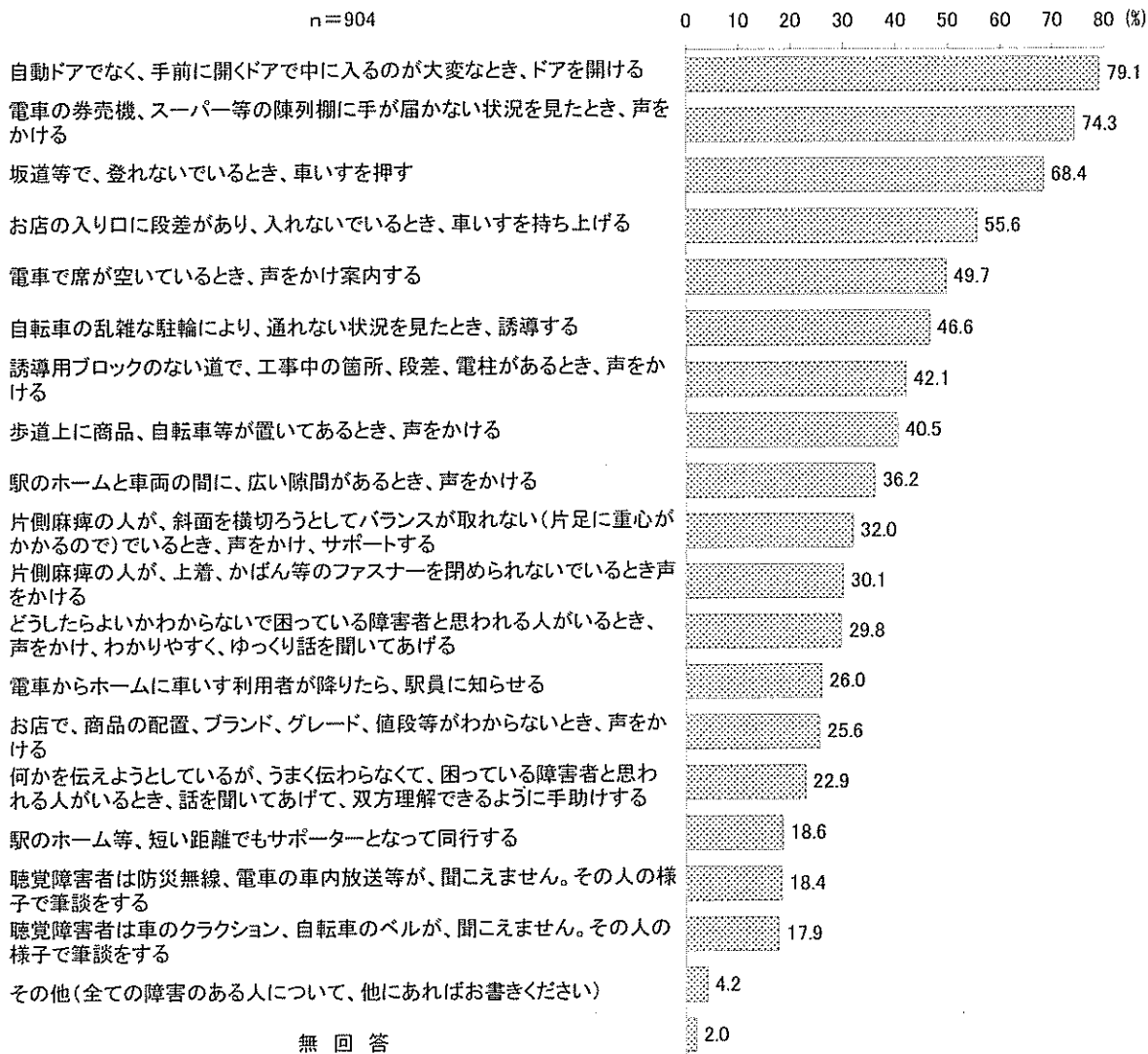


○「こころのバリアフリー」の認知状況を聞いたところ、「知っている」（47.2%）が5割近く、「言葉は聞いたことあるが、意味は知らなかった」（21.0%）が2割を超える。また、「全く知らなかった」（31.4%）が3割を超えている。

(2) 障害のある人が困っているとき、あなたが援助できること

◇「自動ドアでなく、手前に開くドアで中に入るのが大変なとき、ドアを開ける」がほぼ8割

問 10 障害のある人が困っているとき、あなたが援助できることを次の中からすべて選んでください。



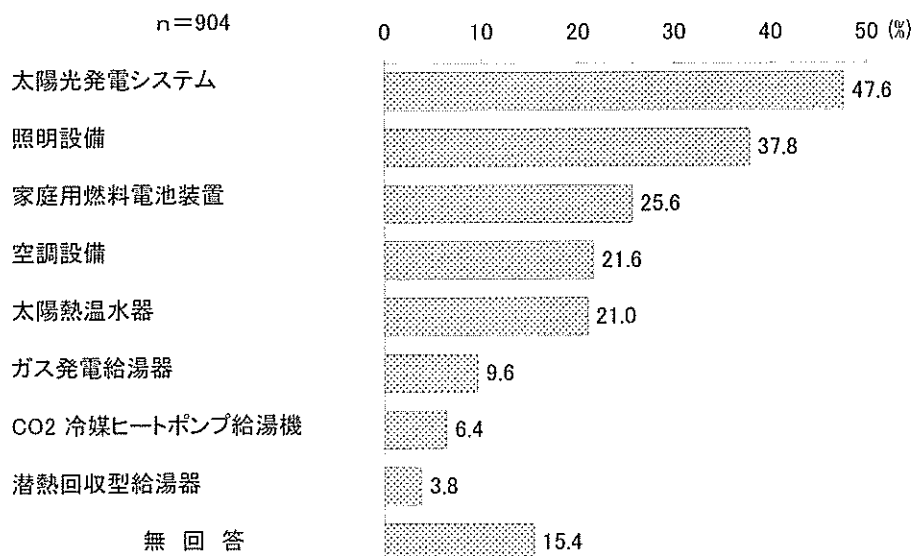
○障害のある人が困っているとき、あなたが援助できることを聞いたところ、「自動ドアでなく、手前に開くドアで中に入るのが大変なとき、ドアを開ける」(79.1%)がほぼ8割と最も多く、次いで「電車の券売機、スーパー等の陳列棚に手が届かない状況を見たとき、声をかける」(74.3%)、「坂道等で、登れないでいるとき、車いすを押す」(68.4%)と続いている。

## 5 温暖化対策

(1) 補助金があるなら、家庭での使用を検討してみたいと思うもの

◇「太陽光発電システム」が5割近く

問 11 補助金があるなら、家庭での使用を検討してみたいと思うものはありますか。次の中からいくつでも選んでください。



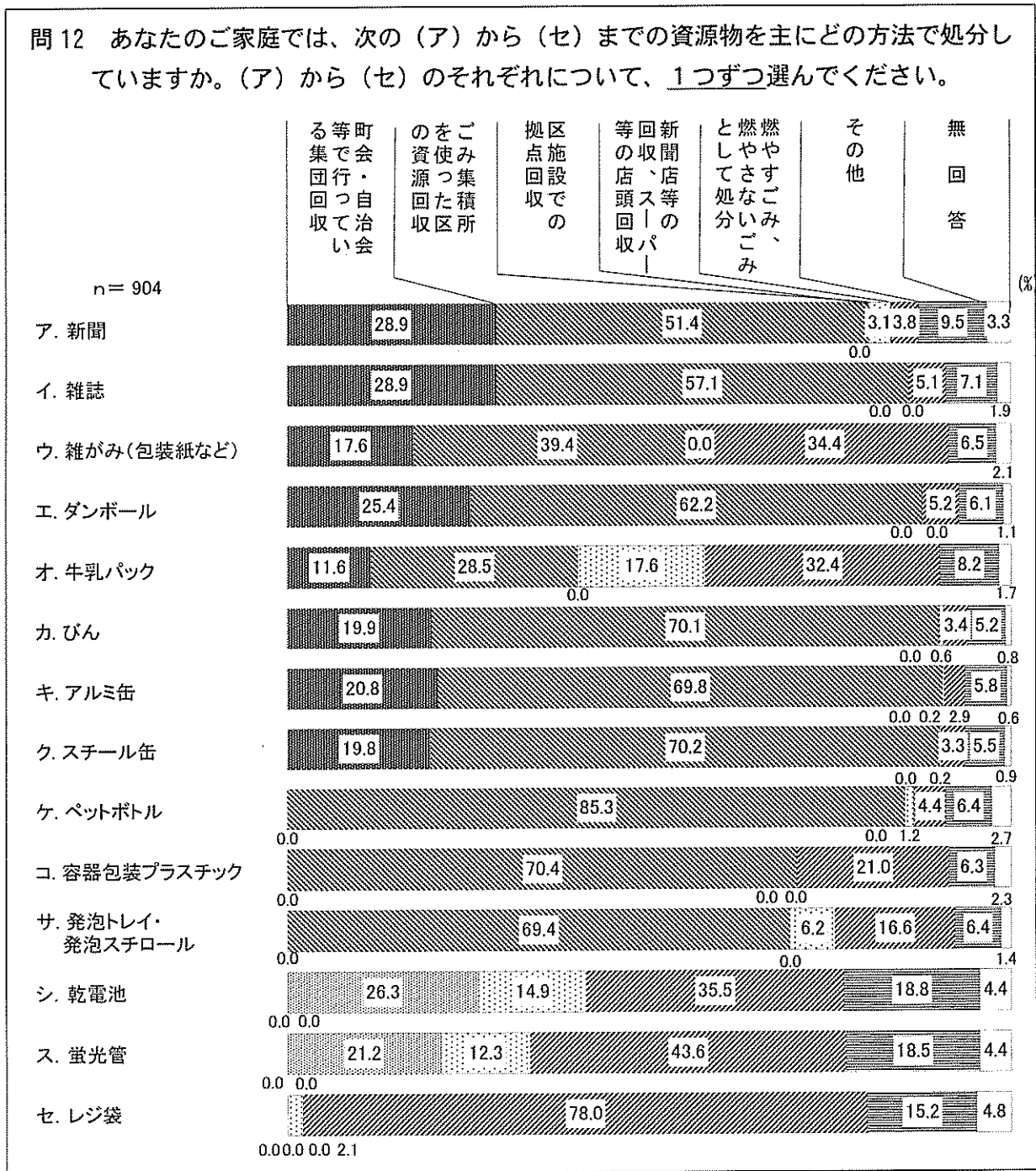
○補助金があるなら、家庭での使用を検討してみたいと思うものを聞いたところ、「太陽光発電システム」(47.6%) が5割近くと最も多く、次いで「照明設備」(37.8%)、「家庭用燃料電池装置」(25.6%) と続いている。

## 6 清掃リサイクル

### (1) 資源物の処分方法

◇「燃やすごみ、燃やさないごみとして処分」が最も多い資源物は“レジ袋”で8割近く

問 12 あなたのご家庭では、次の(ア)から(セ)までの資源物を主にどの方法で処分していますか。(ア)から(セ)のそれぞれについて、1つずつ選んでください。



○資源物の処分方法について、14種類に分けて聞いた。

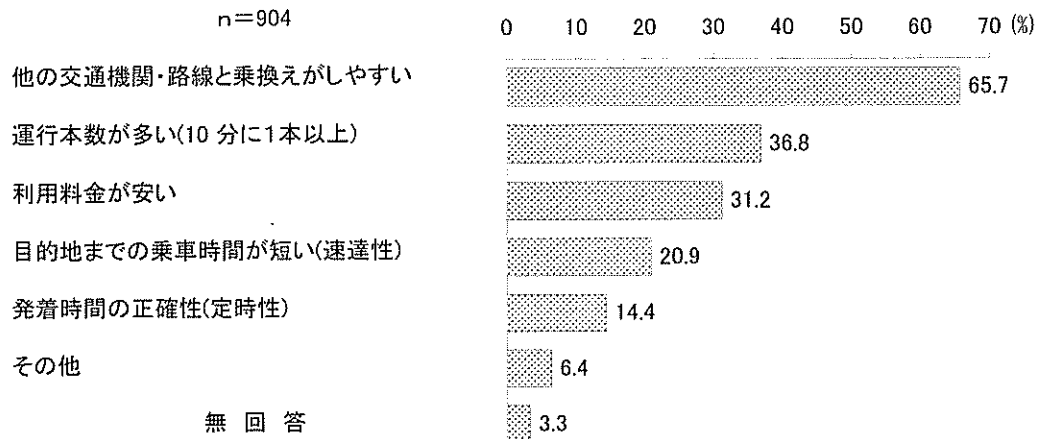
「燃やすごみ、燃やさないごみとして処分」が最も多いのは“レジ袋”(78.0%)で、次いで“蛍光管”(43.6%)、“乾電池”(35.5%)、“雑がみ(包装紙など)”(34.4%)と続いている。

## 7 南北交通

### (1) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が6割台半ば

問 13 区では南北を結ぶ公共交通の充実を重点課題として位置づけ、有楽町線の延伸(豊洲-住吉間)や、バス路線の拡充等を検討しています。あなたが南北を結ぶ公共交通に求めるものを、次の中から2つまで選んでください。

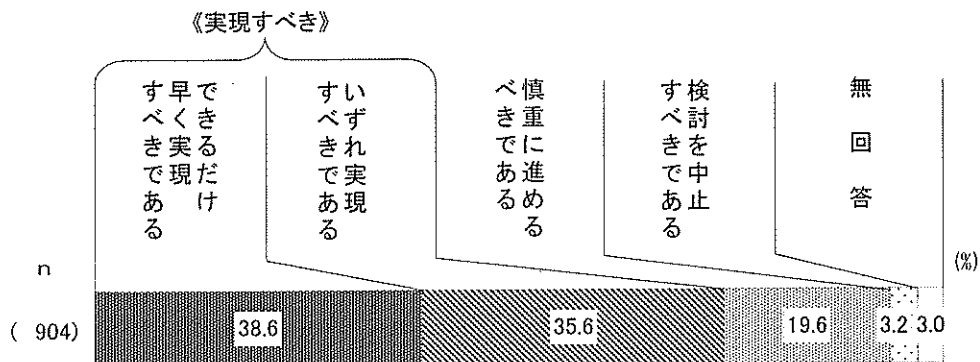


○南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(65.7%)が6割台半ばで最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(36.8%)、「利用料金が安い」(31.2%)と続いている。

### (2) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇《実現すべき》が7割台半ば

問 14 区では、南北移動の利便性向上、東西線の混雑緩和などが期待される有楽町線の延伸(豊洲～住吉間)の早期実現を目指しています。あなたは有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についてどのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。

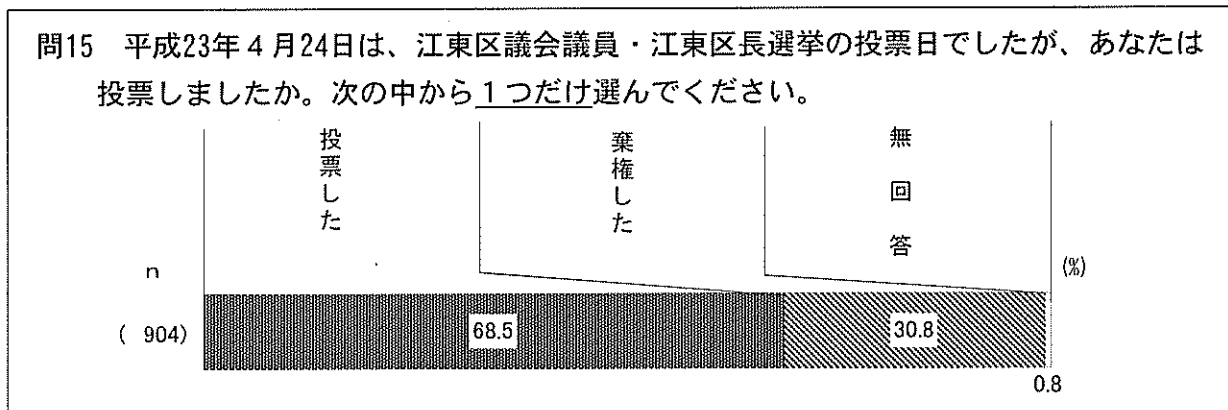


○有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現すべきである」(38.6%)と「いずれ実現すべきである」(35.6%)を合わせた《実現すべき》(74.2%)が7割台半ばとなっている。

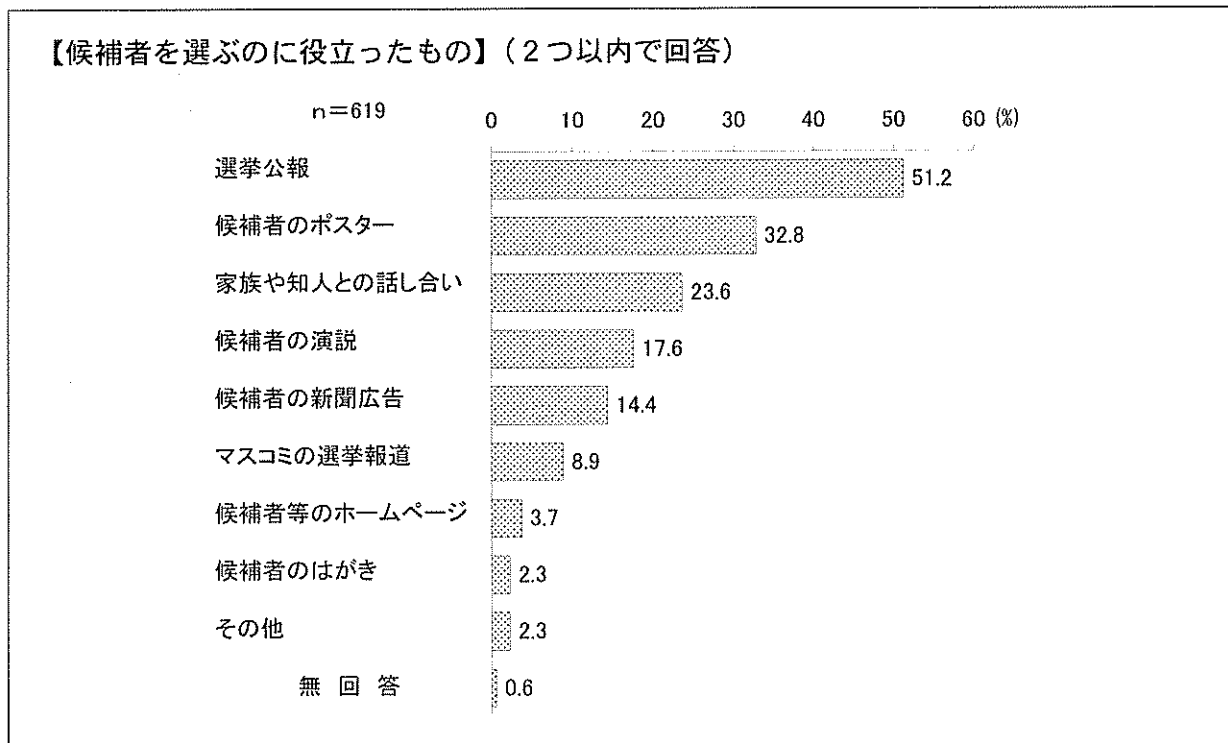
## 8 選挙

### (1) 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無

◇「投票した」は7割近く

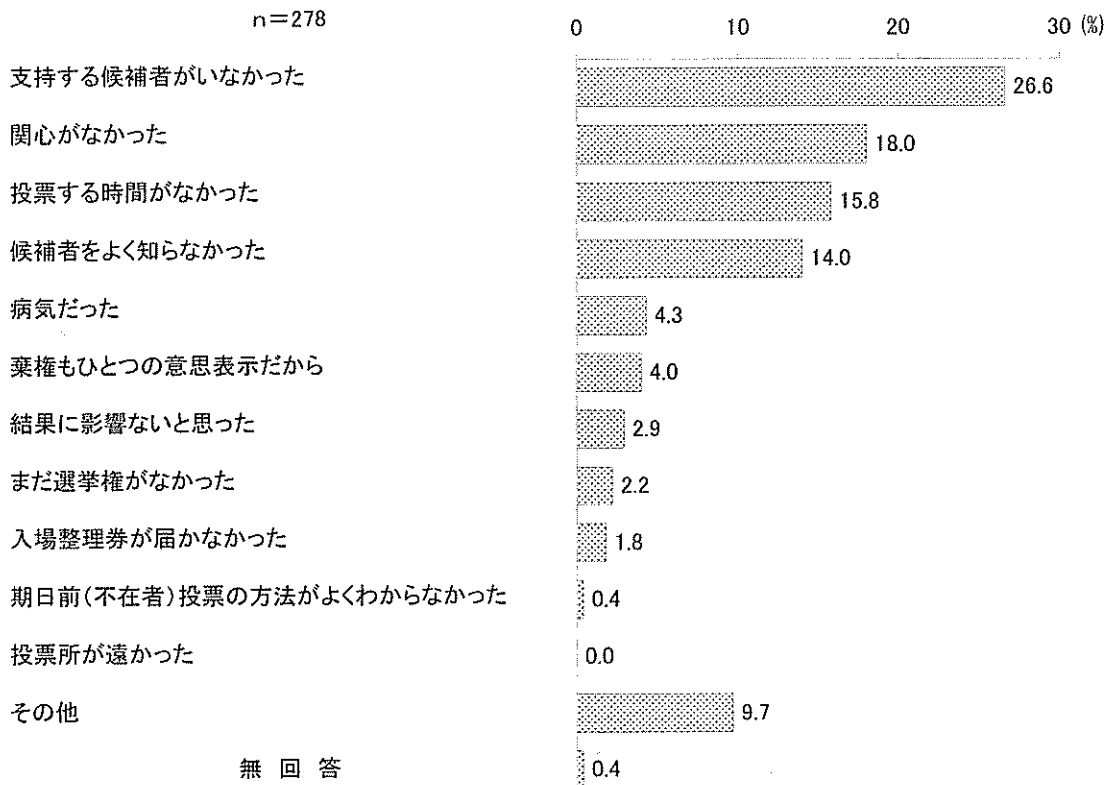


○平成23年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に投票したか聞いたところ、「投票した」(68.5%)は7割近くとなっている。なお、実際の江東区議会議員選挙の投票率は45.76%であった。



○平成23年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「投票した」と答えた方(619人)に、候補者を選ぶのに役立つものは何か聞いたところ、「選挙公報」(51.2%)が5割を超え最も多く、次いで「候補者のポスター」(32.8%)、「家族や知人との話し合い」(23.6%)、「候補者の演説」(17.6%)、「候補者の新聞広告」(14.4%)と続いている。

### 【棄権した理由】

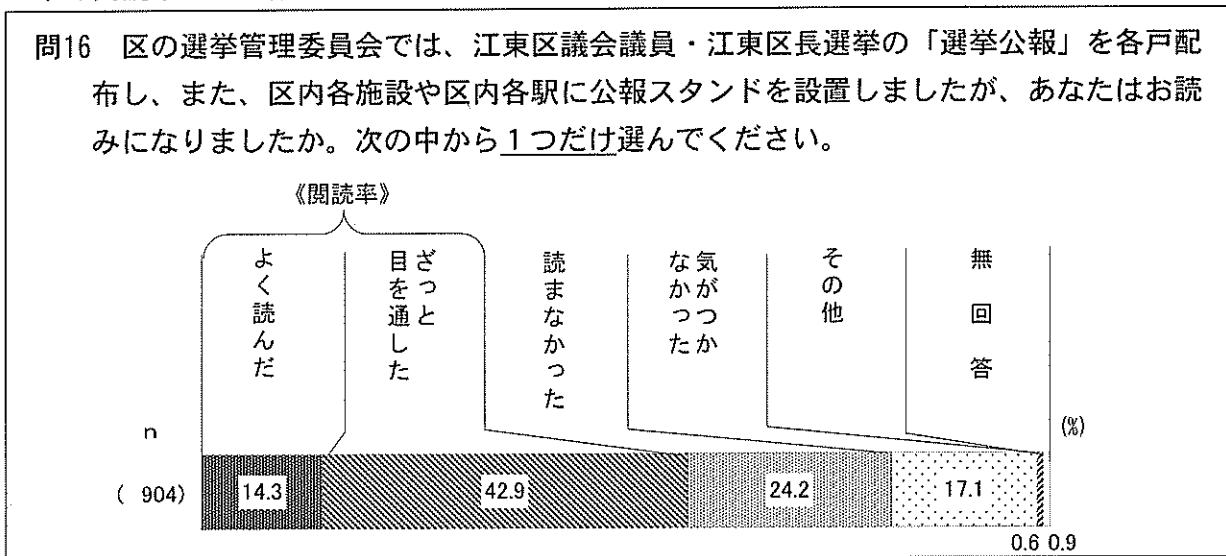


○平成23年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「棄権した」と答えた方(278人)に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」(26.6%)が2割台半ばで最も多く、次いで「関心がなかった」(18.0%)、「投票する時間がなかった」(15.8%)、「候補者をよく知らなかった」(14.0%)と続いている。



(2) 「選挙公報」の閲読状況

◇《閲読率》は6割近く

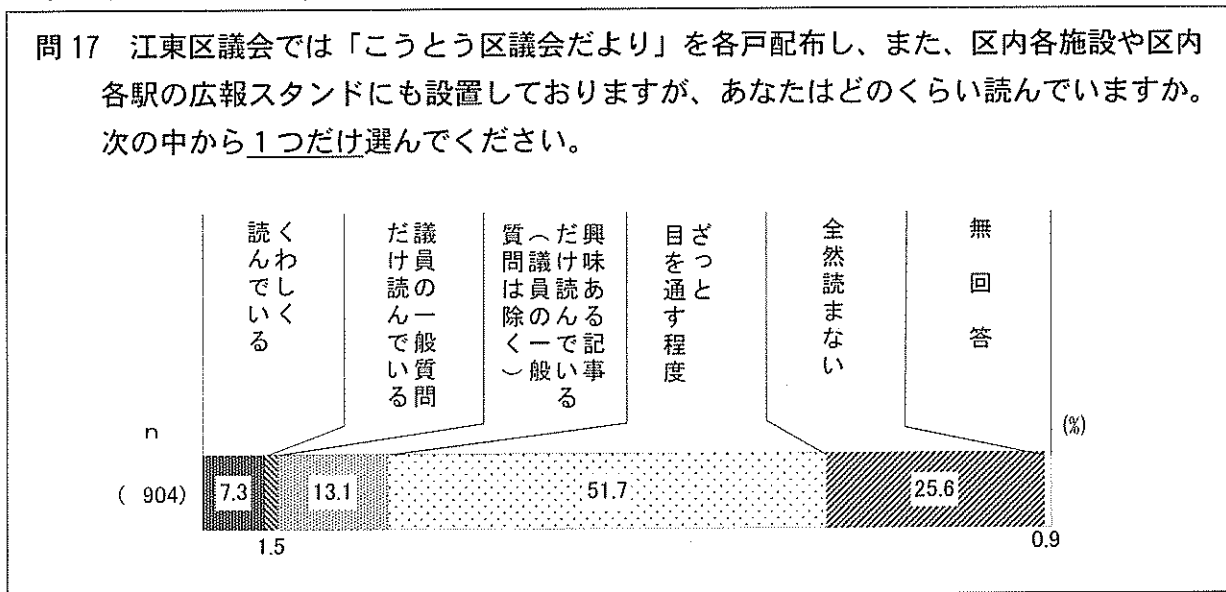


○江東区議会議員・江東区長選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(14.3%)と「ざっと目を通した」(42.9%)の2つを合わせた《閲読率》(57.2%)は6割近くとなっている。「読まなかった」(24.2%)は2割台半ばで、「気がつかなかった」(17.1%)は2割近くとなっている。

9 こうとう区議会だより

(1) 「こうとう区議会だより」の入手方法、閲読状況

◇「ざっと目を通す程度」が5割を超える



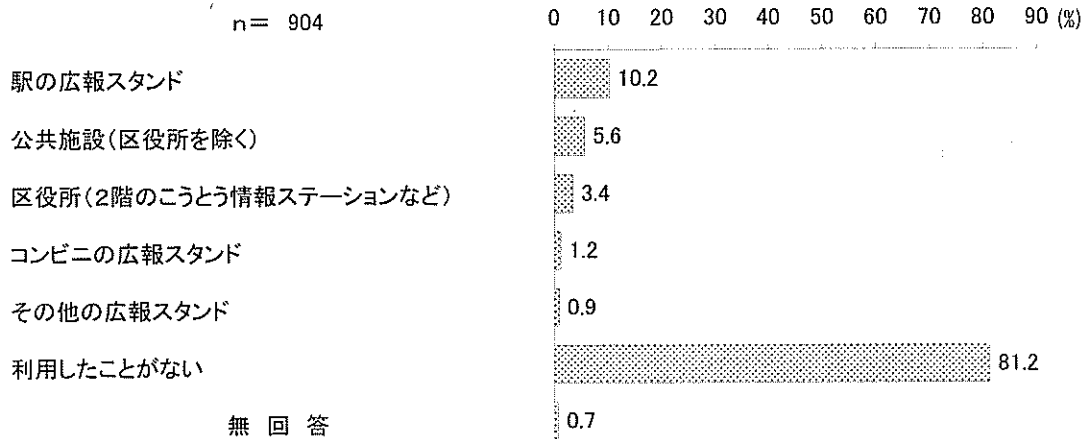
○「こうとう区議会だより」をどのくらい読んでいますか聞いたところ、「くわしく読んでいく」(7.3%)は1割近くで、「興味ある記事だけ読んでいます(議員の一般質問は除く)」(13.1%)は1割を超えている。また、「ざっと目を通す程度」(51.7%)が5割を超えて最も多くなっている。

## 10 広報・広聴

### (1) 「こうとう区報」の入手方法、閲読状況

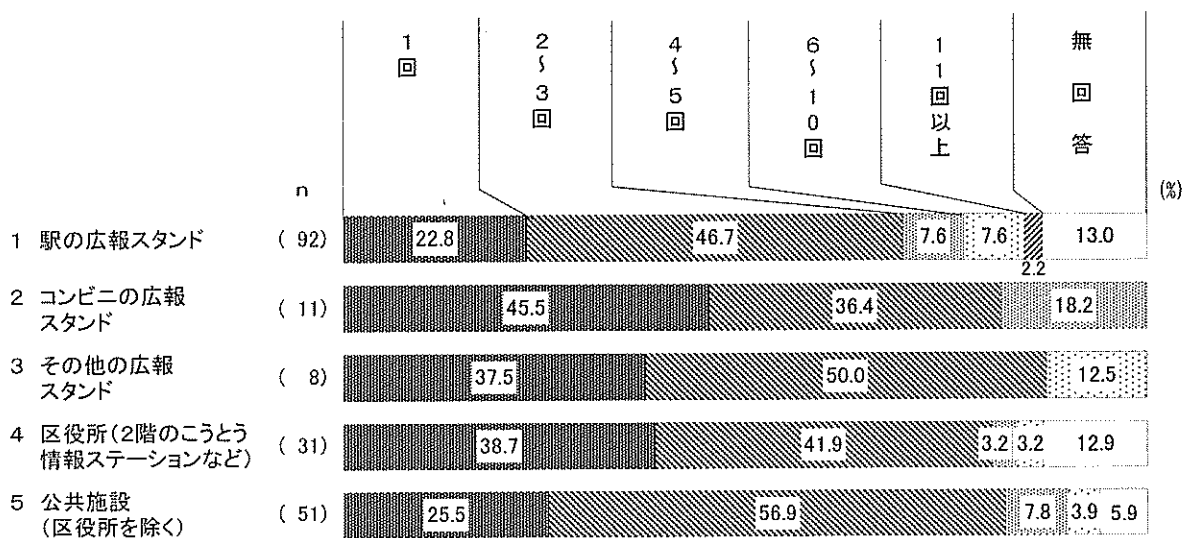
◇「駅の広報スタンド」がほぼ1割、「利用したことがない」が8割を超える

問18 「こうとう区報」は現在全世帯の方にお届けするほかに駅やコンビニなどの広報スタンドや公共施設などでも配布しています。平成22年7月1日の区報全戸配布以降に広報スタンドなどを利用して区報を入手したことがありますか。次の中から該当するものをすべて選んでください。また、何回利用しましたか。



○区報全戸配布以降に広報スタンドなどを利用して区報を入手したことがあるか聞いたところ、「駅の広報スタンド」(10.2%)がほぼ1割、次いで「公共施設(区役所を除く)」(5.6%)、「区役所(2階のこうとう情報ステーションなど)」(3.4%)と続いている。また、「利用したことがない」(81.2%)が8割を超えて多数を占めている。

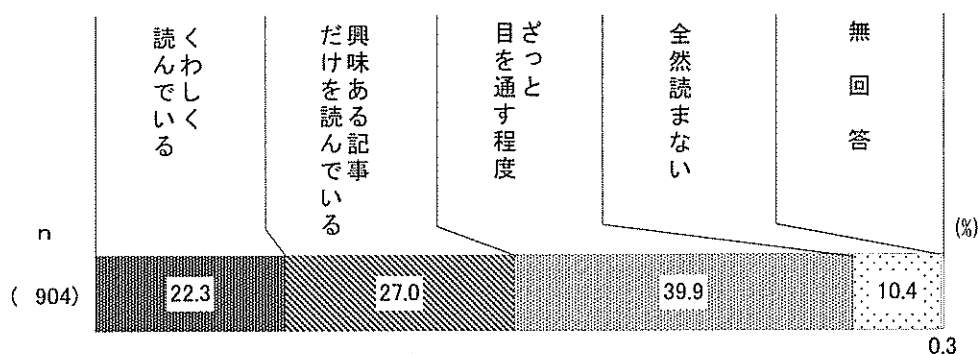
#### 【利用回数】



○広報スタンドなどを利用して区報を入手したことがある人の利用回数については、「公共施設(区役所を除く)」では「2～3回」(56.9%)が5割台半ばとなっている。

◇区報を読んでいる人はほぼ9割

問19 「こうとう区報」は現在全世帯の方にお届けしていますが、どのくらい読んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。

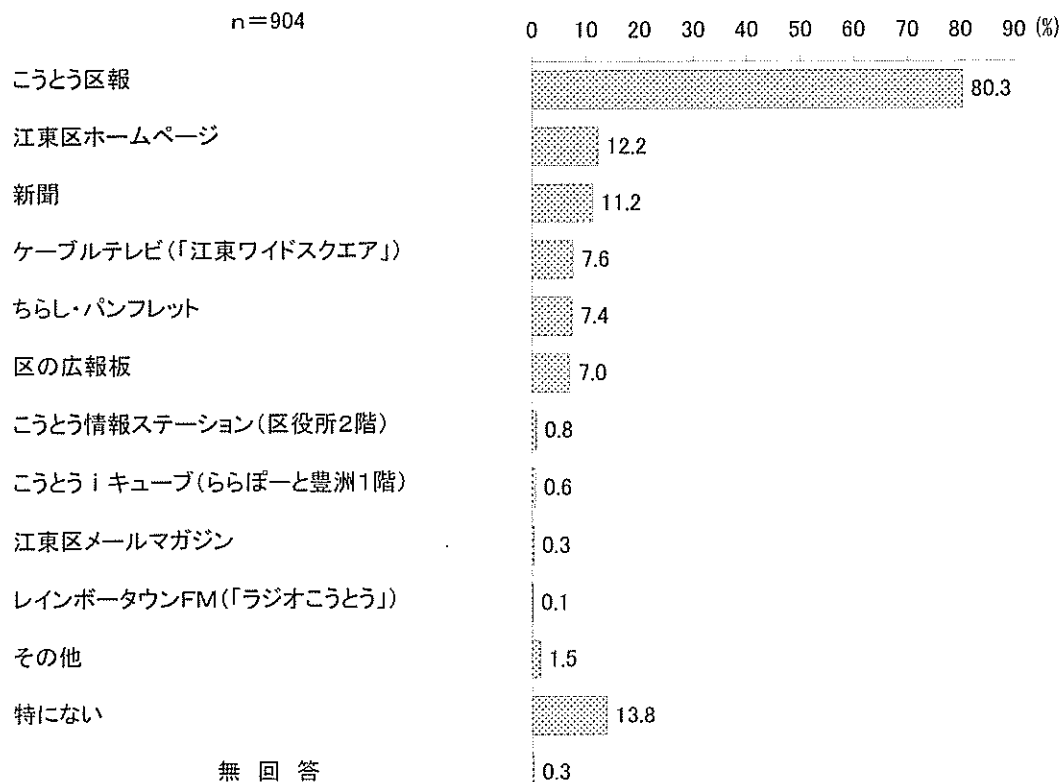


○「こうとう区報」をどのくらい読んでいますか聞いたところ、「くわしく読んでいく」(22.3%)は2割を超えている。「興味ある記事だけを読んでいる」(27.0%)は3割近くで、「ざっと目を通す程度」(39.9%)はほぼ4割となっている。

(2) 区の仕事や行事の認知媒体

◇「こうとう区報」がほぼ8割

問20 区の仕事や行事を何で知りましたか。次の中から該当するものをすべて選んでください。

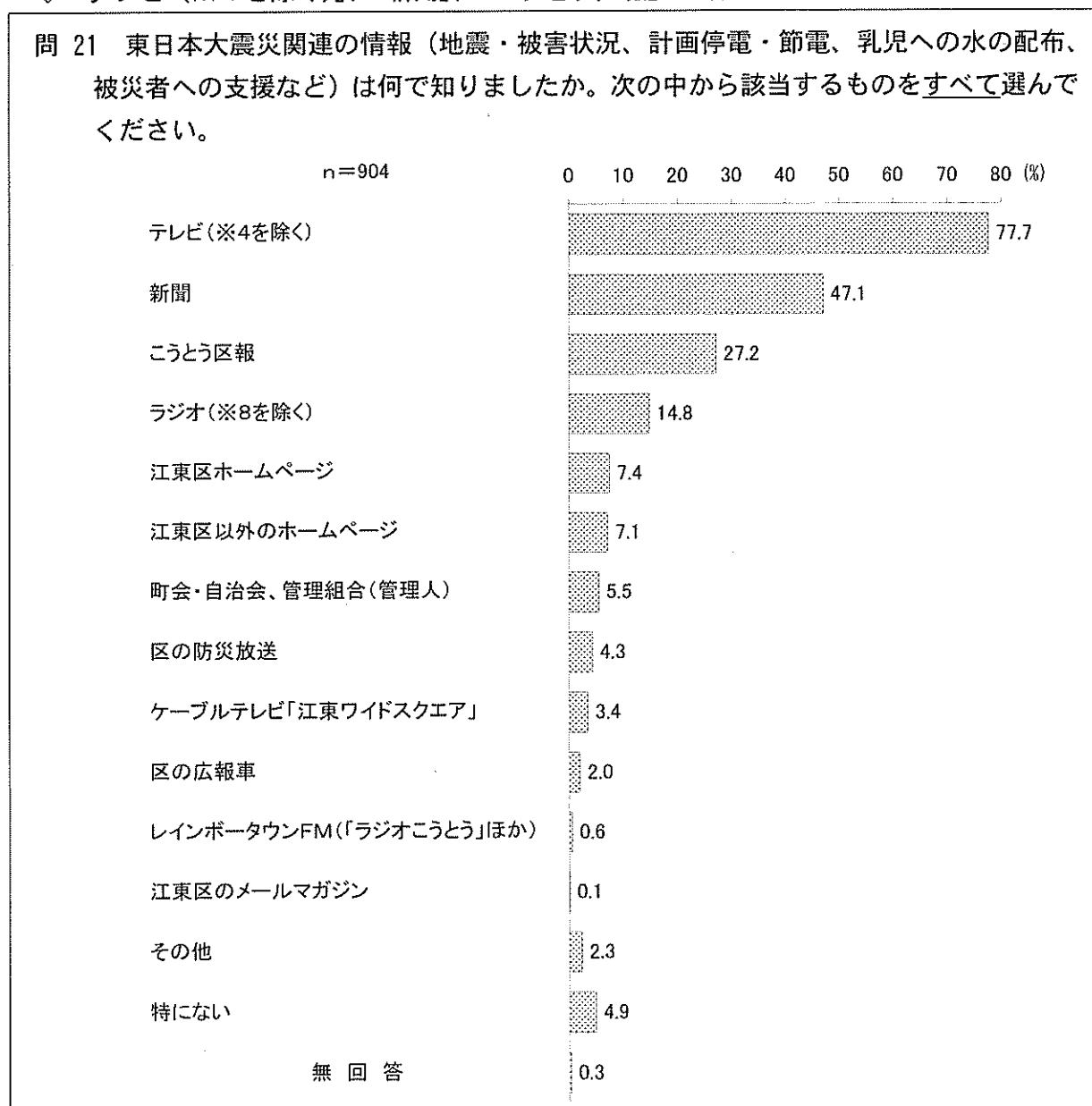


○区の仕事や行事の情報を何から得ているか聞いたところ、「こうとう区報」(80.3%)がほぼ8割と最も多くなっている。次いで「江東区ホームページ」(12.2%)、「新聞」(11.2%)、「ケーブルテレビ(「江東ワイドスクエア」)」(7.6%)、「ちらし・パンフレット」(7.4%)、「区の広報板」(7.0%)が続いている。

### (3) 東日本大震災関連の情報を何で知ったか

◇「テレビ(※4を除く)」、「新聞」、「こうとう区報」の順

問 21 東日本大震災関連の情報(地震・被害状況、計画停電・節電、乳児への水の配布、被災者への支援など)は何で知りましたか。次の中から該当するものをすべて選んでください。



○東日本大震災関連の情報を何で知ったか聞いたところ、「テレビ(※4を除く)」(77.7%)が8割近くで最も多く、次いで「新聞」(47.1%)、「こうとう区報」(27.2%)、「ラジオ(※8を除く)」(14.8%)と続いている。

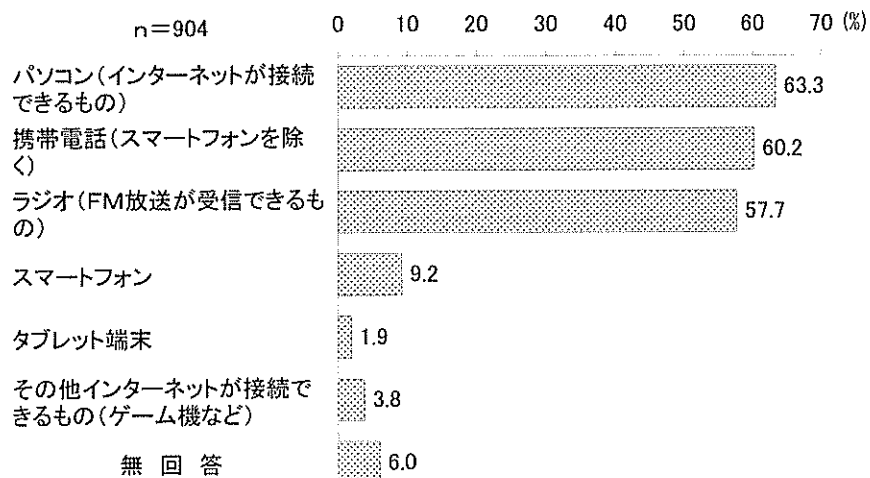
※4 → ケーブルテレビ「江東ワイドスクエア」

※8 → レインボータウンFM(「ラジオこうとう」ほか)

(4) 情報を収集するための機器について持っているもの

◇「パソコン（インターネットが接続できるもの）」と「携帯電話（スマートフォンを除く）」が6割を超える

問 22 情報を収集するための機器について何を持っていますか。次の中から持っているものをすべて選んでください。

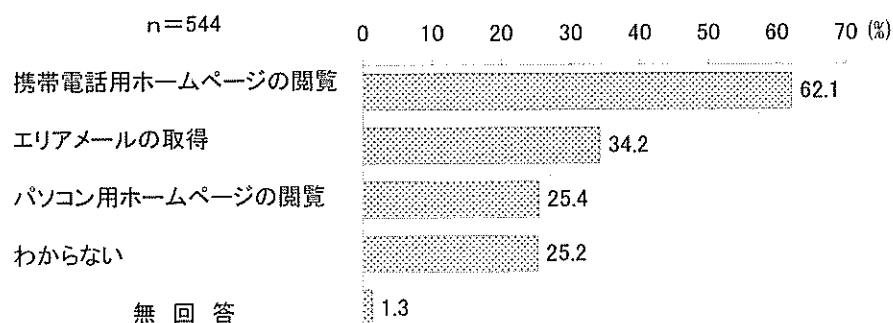


○情報を収集するための機器について何を持っているか聞いたところ、「パソコン（インターネットが接続できるもの）」(63.3%)と「携帯電話（スマートフォンを除く）」(60.2%)が6割を超え多く、次いで「ラジオ（FM放送が受信できるもの）」(57.7%)と続いている。

(問 22 で、「3 携帯電話（スマートフォンを除く）」とお答えの方に)

問 22-1 お持ちの携帯電話で取得できる情報は何か。次の中から該当するものをすべて選んでください。

【お持ちの携帯電話で取得できる情報】



○情報を収集するための機器で携帯電話（スマートフォンを除く）と答えた方（544人）に取得できる情報を聞いたところ、「携帯電話用ホームページの閲覧」（62.1%）が6割を超え最も多く、次いで「エリアメールの取得」（34.2%）、「パソコン用ホームページの閲覧」（25.4%）と続いている。